

棚田の景観保全に協働で取り組む現場を訪ねて～東部くるまざ会～

交通基盤部 建設支援局技術管理課

平成29年12月22日(金)に「東部くるまざ会」を開催しました。建設技術監理センターは、建設行政に関連して地域の課題に積極的な取組を行っている協働の現場を訪問し、現場見学と意見交換(くるまざ会)を行っています。

今回の訪問先である松崎町の石部棚田は、石部棚田保全会が中心となって、行政、地元の高校、大学、企業、地元ボランティア等の協働により「棚田オーナー制度」や「一社一村しずおか運動」などを展開し、地域は育んできた棚田の保全と棚田が持つ良好な景観や自然環境を活かした地域活性化に取り組んでいます。

当日は、行政機関やNPO等からの参加者(計15名)が、石部の棚田を見学後、保存会の方から棚田の保全取組に関する経緯、活動内容、今後の課題に関する説明を頂きました。保存会の方からは、メンバーの高齢化等により棚田保全が困難となっていくことを懸念しており、若い世代への引き継ぎや棚田オーナーからの会費等以外の収入源の模索など、持続可能な棚田保全の仕組みづくりが急務であるとの説明がありました。

その後、「持続可能な棚田保全の仕組みづくり」をテーマに、保存会の方を交えて3グループに分かれて、意見交換を行いました。

参加者からは、「山から海まで見渡せる景観をSNSで発信し人を呼び寄せる」、「棚田米以外の地場製品のブランド化」、「イベントを通じた海外客の誘致」等の意見が出ました。



保存会による取組説明



意見交換会